

第 56 回 中国地区英語教育学会・研究発表会 発表要旨集・ご案内

大会実行委員長：高橋 俊章（山口大学）

大会事務局：猫田 和明（山口大学）

日時：令和 7 年 6 月 28 日(土) 12:50～16:50
会場：山口大学教育学部(〒753-8513 山口市吉田 1677-1)
会費：正会員 無料
非会員 一般 2,000 円／学生(含大学院生)1,000 円(資料代として)
*現金のみ対応可能です

日程：理事のみ 11:00～12:30 理事会（教育学部 C 棟 3 階 第 3 会議室）
12:20～ 受付（教育学部正面玄関）
12:50～13:30 総会（教育学部 B 棟 2 階 22 番義室）
13:40～14:50 特別講演（教育学部 B 棟 2 階 22 番義室）
15:00～16:50 自由研究発表（教育学部 B 棟各室）
18:30～20:30 懇親会（福の花 湯田本店 会費 6,000 円）
山口県山口市湯田温泉3-1-29 083-921-8522

お知らせとお願い

【ご案内】

- ・山口大学吉田キャンパスへのアクセスは大学のウェブサイトをご参照ください。
https://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/campus_map/access_yoshida_campus/index.html
なお、山口大学吉田キャンパスは、土日は正門からのみ入構できます。お車でお越しの場合、入構制限はしていませんが、もし、入口で守衛さんに尋ねられた場合は学会で来学した旨を教えてください。
- ・校内駐車場は十分なスペースがあります。ご利用ください。
- ・参加申込の締切は過ぎましたが、当日参加も受け付けております。なお、会員でない方は、当日会費を受付でお支払いください(現金のみ)。大会事務局では入会や年会費の受付はできませんのでご了承ください。
- ・懇親会に参加申し込みをされた方は、当日受付で会費をお支払いください(現金のみ)。懇親会の当日受付は行っておりません。なお、6 月 21 日(土)以降は懇親会のキャンセルはお受けできませんのでご了承ください。懇親会会場は、キャンパス内ではなく、「福の花 湯田本店」です。末尾の案内を参照のうえ、お越しく下さい。
- ・昼食は、学生食堂「ボーノ」(教育学部ウラ)が営業しています(11:00～14:00)。
- ・宿泊については、お手数ですが各自でご手配ください。宿泊予定の方は早めに宿を予約するようにご注意ください。
- ・山口市内のタクシーは台数が限られているため、予約なしで乗車することは困難なことが多いです。ご利用の際は事前予約をおすすめします。
- ・出張依頼を必要とされる方は、中国地区英語教育学会事務局
(casele2025to2026@gmail.com)まで宛先をお書き添えのうえご依頼ください。

■ 研究発表をなさる方は以下の点にご留意ください。

- ・発表時間は 20 分、質疑応答は 10 分です。
- ・司会者および計時は依頼しておりませんので、発表時間 20 分・質疑応答 10 分の進行と時間管理は発表者ご自身でお願い致します。時間厳守にご協力ください。
- ・当日資料を配付される発表予定者の方は、各自の判断でご準備ください。残部はお持ち帰りください。
- ・パソコン等を使用される方は各自ご持参ください。なお、必要に応じてプロジェクターと HDMI 端子で接続ができるアダプターを各自でご準備ください。(HDMI ケーブルは、すべての部屋に常備されておりますが、ご持参いただく端末によっては Type C→HDMI のような変換アダプターが必要です。)
- ・会場でご利用いただける Wi-Fi はありません。必要な方は、個人でルーターをご持参いただく等の準備をお願いいたします。
- ・33 番教室(3 階)を休憩室としています。休憩にご利用ください。ゴミはお持ち帰りください。

・ 構内は禁煙です。ご協力をお願い致します。

【特別講演】(教育学部 B 棟 22 番教室) 13:40～14:50

講 演 者: 広島大学名誉教授 深澤 清治 先生

講演タイトル: 「学会の役割と使命:研究はどのように生まれるか？」

中国地区英語教育学会の設立以来、半世紀が過ぎた。その過程において、専門的学問領域としての「英語教育学」は、自らの研究領域の明確化や社会的ニーズにより、十分に定着してきた。それに伴って会員数も拡大し、「学会」という名称が敷居の高い存在から、より身近な存在になってきているように感じられる。ここで改めて研究と実践の往還を目指す学会として、学会の社会的な使命と期待にどのように応えるべきか、考えてみたい。発表では、第1に、中国地区英語教育学会の設立過程とその構成の特徴について述べることで、本学会の特徴を明らかにしていきたい。第2に、英語教育研究の自分史を辿りながら、どのように研究の芽が生まれてきたのか、その試行錯誤と葛藤について自省的に振り返ってみたい。最後に、この学会の将来のためにノービスからベテランに至る会員の皆様とこの学会との関わりについてささやかな期待を述べたい。

【自由研究発表】 15:00～16:50

第 1 室(2 階 22 番教室)

15:00～15:30

「初等教員養成課程」の「外国語」における学習支援 – 大学生の ICT 活用認識 –

竹野 純一郎(岡山理科大学)

國本 和恵(岡山理科大学非常勤講師)

本研究は、高校時代に ICT 体験が少なかった大学生の ICT 活用認識変容を、1 年生と 2 年生で比較検証した。ICT 利用・活用に関する自由記述の共起ネットワーク分析から、1 年生は ICT 活用知識が乏しく活用力も低い、今後より活用していこうという意欲を示した。2 年生では、授業に組み込む方法を具体的に述べ、ICT を授業の中心ではなくツールとしてどう活用するかを計画できるようになったと考えられる。

15:40~16:10

Integrating speaking into writing: An approach to university English writing classes in the age of generative AI

関谷 弘毅(東洋英和女学院大学)

This action research explored an instructional approach that integrates speaking activities into a university English writing course for first-year students majoring in non-English fields. The course aimed to enhance students' writing proficiency and engagement through peer-based speaking practice and AI-supported writing. The findings indicate that regular speaking opportunities encouraged deeper engagement with writing. In particular, explicit instruction in active listening skills, along with rotating speaker and listener roles, led students to greater confidence, increased enjoyment, and a stronger sense of purpose and audience awareness. This study offers pedagogical implications and proposes future directions for integrating speaking and writing instruction in the context of ubiquitous generative AI.

15:20~16:50

英語学習における主体的な生成 AI 使用とは

宮迫 靖静(福岡教育大学)

英語学習における生成 AI 使用に関するメタ研究(Wu, 2024; Xu and Wang, 2024; Lai and Lee, 2024 等)は、学習の個別化、自己効力感・ウェルビーイングの向上、スピーキング能力の向上、等の利点を示す一方、動機づけや自己調整学習の支援における課題を指摘しています。この点に関する教師の役割は重要です。本発表では、英語授業における生成 AI 使用を自己調整の社会認知発達モデル(Schunk & Zimmerman, 2007)に基づいて考察します。

第 2 室(2 階 23 番教室)

15:00~15:30

学びのユニバーサルデザイン(UDL)の枠組みに基づく高等学校総合学科における『話すこと[やり取り]』—感情面・認知面・方略面に着目して—

武田 千絵(広島県立賀茂高等学校)

県立総合高校において、ULD の枠組みを基盤とした感情・認知・方略の 3 つの側面から学習を統合的に捉え、最終的に自律的な学習者となるよう、独自のストラテジー指導を段階的に導入しながら、言語活動の中でやり取りの学習を実践した。その結果、学習者に寄り添った指導・支援となり、それなりの成果をあげることができた。一方で、語彙分析から、教科書を活用した認知活動については課題が残った。

15:40~16:10

英語リメディアルレベルの学習者に応じた基礎力養成プログラムの一考察

仲川 浩世(大阪女学院大学・大阪女学院短期大学)

本発表は、英語リメディアルレベルの学習者に応じたプログラムの可能性を探ることを目的とする。native 教員と日本人教員が連携する英語四技能クラス(リーディング、オーラル・コミュニケーション、文法、ライティング)から成るプログラムを実施し、学習者の英語運用能力の強化を目指してきた。昨今、様々な背景を抱えた学習者が共生する教室環境へと変わりつつある。この現状を踏まえて今後の課題について考察したい。

15:20~16:50

明示的指導の効果について—ESP(理系英語)学習者の場合—

吉川 正美(English Learning Support)

ESP 教育では学習者が対象のジャンルに合う言語特徴に気づき習得することが望まれる。本研究の目的は、理系英語対象の教育実践の中で行った語彙及び文法規則に関する明示的指導が有効に機能するかを検証することである。学習者を対象に学習効果感の回想的自己評価法による調査を実施した。結果、語彙学習方略型別に特徴的な効果が、また、文法規則は理解され速読や言語産出において運用され始めていることが認められた。

第3室(2階 24番教室)

15:00~15:30

中高英語教科書での法副詞の実現可能性の提示について

高橋 有香(山口大学)

法副詞は会話で多く用いられ、話者が命題に対して考える実現可能性の度合いを一語で端的に表すので、コミュニケーションに役立つと考えられる。しかし、2023年度使用の小中高英語教科書では法副詞に焦点は当てられておらず、各法副詞の持つ実現可能性に関する記載も乏しい(Takahashi 2025)。本発表では中学校段階で導入される法副詞について、実現可能性の提示の必要性について考察する。

15:40~16:10

英語学習参考書の例文に見られる「規則性」―法助動詞の効果的な学習方法の検討に向けて―

八汐 美月(広島修道大学)

法助動詞は、文の内容に「話し手や書き手の〈きもち〉」(倉林, 2022, p. 86)を付け足すという、人間のコミュニケーションにおいて重要かつ繊細な役割を担っている。そのため、法助動詞の学習には、言語の実際の使用が反映された「例文」が用いられるべきであると考えられる。本研究では、日本人向け英語学習参考書内の法助動詞が含まれる例文を意味的・統語的な観点から分析し、その取り扱いにおける規則性について考察する。

第4室(3階 31番教室)

15:00~15:30

説明文の読解における単語処理と理解度の関係性

浅井 智雄(元福山平成大学)

近年、読みの流暢性に関して、連続する語が異なったレベルで同時に処理されるとする語間レベルでの処理(Viersen, et al, 2025; Protopapas, et al, 2013)が提唱されている。この処理は、Serial rapid automated naming (RANと略、Protopapas, et al, 2013)と呼ばれ、一つ一つの語を対象とした測定値よりも読みの流暢性に強い関係があるとされる。本発表では、上述の語間レベルでの処理を考慮しつつ、単語の処理と理解の関係を明らかにすることを目的として、非英語専攻大学生を対象としたテキスト音読課題分析結果が読解構成要因にどのように反映するかということを量的・質的側面から分析し報告する。

15:40~16:10

「書くこと」から「読むこと」への指導

武田 弘文(吉備国際大学)

本研究は、中学生にとって難易度の高い「書くこと」の指導について、読み手を意識した段落構成(パラグラフ・ライティング)についての指導等による技能面の定着ののちに、技能統合の視点から、さらに「読むこと」への指導につなげた。そうすることで、「書くこと」、「読むこと」のいずれにおいても土台となる相手意識を大切にコミュニケーション大切さや生徒の学びに対する意欲や主体性が高まることが期待できると考えた。

15:20~16:50

教職志望学生における「概要」と「要点」の認識に関する一考察

中野 修一(就実大学)

本研究は、教職課程を履修する大学生が、中学校学習指導要領に記された「概要を捉えること」と「要点を捉えること」の違いを十分に理解していない可能性に着目した。質問紙調査と全国学力学習状況調査の該当問題を実際に解答させた結果、両概念の混同や理解の曖昧さが確認された。読解力と表現力の育成を目指す英語指導の質を高めるには、両者の違いを明確に捉えた指導が求められることを示す。

第5室(2階 32番教室)

15:00～15:30

英語版『陰山メソッド 3.0』～オンラインで全国に広がる、オンライン学習進捗管理システム～
山田 賢治(岡山県笠岡市立新吉中学校)

学習指導要領にのっとり、教科書をきちんと活用しつつも、スローラーナーからファストラーナーまで全員の進捗に応じて学習課題を設定するポートフォリオ式自由進度学習は、中1と中2が県の中3と同じ英検スコアを獲得するまでにいった。また、オンライン職員室を通じて、同じ指導法が全国へ拡散し、同様に高い成果を上げたという報告も上がってきている。今年度から、全国規模の協議会を通じて先進校と共有する予定の陰山メソッド 3.0 の英語部門について概説する。

15:40～16:10

英語パブリック・ディバートの普及を目指して ―社会科実践からの学びと応用―
上田 真梨子(徳山工業高等専門学校)

政策提案型パブリック・ディバートは先攻と後攻の2チームが、与えられた社会的問題を解決するための政策をそれぞれ提示し、お互いの政策に対して質疑と意見交換を重ね、政策を練り直して再提案する形式のディバートである。社会科教育の分野で提唱され、徐々に認知度が上がっているが、英語科での実践例はまだ少ない。社会科での実践例を分析し、英語科で普及を進めていくために学べき点と応用が必要な点について考察する。

15:20～16:50

一つ的话题で系統的に展開していく英語の授業過程―好きなこと・ものを話題として―
又野 陽子(広島大学)

あいさつとウォーム・アップ、復習、導入、展開、整理といった指導過程の各段階が系統的、継続的に一つのトピックで展開していく授業は、生徒の思考の流れが自然で、わかりやすい授業につながると考えられる。本発表では、「好きなこと・もの」という話題を串として、相互に関連した学習作業を適切に配列し、一連の流れの中で言語使用まで生徒を導いていく授業の実践を報告する。Mim-mem、文型練習、口頭導入といった指導技術と談話の流れの中で適切な言語使用を促すための工夫についても提示する。

第6室(2階 41番教室)

15:00～15:30

TOEIC 模擬試験スコアと語彙サイズの相関に関する一考察

金城 承紀(梅光学院大学)

中国地方の私立大学でTOEIC 対策授業を受講する学生 86 名を対象に、2 回分の TOEIC 模擬試験と Vocabulary Size Test(Nation, 2007) のスコアを比較・分析した。Compleat Lexical Tutor を用いて作成した語彙プロフィールを参考に、リスニング・リーディング各セクションおよび総合点との相関関係を検証した。語彙力とスコアの関連性から、効果的な TOEIC 指導への示唆を考察する。

15:40～16:10

オーセンティック教材を使用した英語リスニング授業前後のリスニング力、自律的な学習、方略使用の変化

山内 優佳(広島大学)

本研究は日本人大学生を対象に、オーセンティック教材を使用したリスニング授業を行い、その前後におけるリスニング力、英語の学習時間、自律的な学習への志向性、リスニング方略の変化を測定するものである。全体として、英語を聞き取る力に向上が見られ、リスニング・リーディング・語彙の学習時間が増加し、自ら教材や進度を決めながら学習することがより好まれるようになった。方略使用には変化が見られなかった。

15:20~16:50

大学生英語学習者の言語学習観－教育的介入による言語学習観の変容－

岩中 貴裕(山口県立大学)

本研究は、1)学習者の言語学習観は英語力によって異なるのか、2)大学入学直後の言語学習観は英語力の向上を予測するのか、3)大学生の言語学習観は入学後に変化するのか、という3つの研究上の問いに答えることをその目的とする。分析の結果、B1レベル以下の学習者とB2レベル以上の学習者の間には言語学習観において差があること、大学入学直後の言語学習観は英語力の向上を予測しないこと、大学生の言語学習観を教育的介入によって変容させることが可能であることが示唆された。

第7室(4階 42番教室)

15:00~15:30

高専における短期海外語学研修の課題と今後の展望

倉増 泰弘(徳山工業高等専門学校)

2022年以降、高専A校ではフィリピン・セブ島にて短期語学研修を実施してきた。しかし近年、円安や物価高騰により参加費が増加しているほか、語学力の向上だけでなく、事前・事後研修の充実や課題解決型学習の導入など、多様なニーズへの対応も求められている。本発表では、これまでの語学研修の課題を整理し、今後のより効果的かつ持続可能な海外研修の在り方について考察する。

15:40~16:10

オランダの教員養成におけるピアグループリフレクションのナラティブ分析 ―目標言語使用に関する事例から―

猫田 和明(山口大学)

オランダの教育養成カリキュラムではインタービジョンと呼ばれるピアグループリフレクションが行われており、学生が実習で直面する課題を共有し、その課題を取り巻く諸要因を検討しつつ、問題解決のためのアイデアを出し合うことで、経験と省察を通じた専門的力量的形成を目指している。本発表では、目標言語使用に関する事例から、指導者がコーディネーター役として学生の省察を支援する様子をナラティブ分析によって描き出し、自律的な教員を育成するための指導のあり方を探るものである。

15:20~16:50

フィンランドの言語教育政策と CLIL 授業の考察

二五 義博(山口学芸大学)

本発表では、フィンランドの言語教育政策を視野に入れながら、2022年8月に現地の公立小学校を訪問し、CLIL授業の観察(図画工作、音楽、算数、倫理学、体育)及びCLIL教員の聞き取り調査を行った結果を報告する。理論的には、CLILの4Cである内容・言語・思考・協学/文化と、CLILの指導法の1つMI(多重知能)の視点から分析を行い、内容と言語の効果的な統合、思考の発達や個性を生かす点などから、日本の外国語教育に示唆できることを探る。

第8室(4階 43番教室)

15:00~15:30

聴覚に障害のある生徒の英語学習への動機づけ構造:自己決定理論に着目して

神手 斗也(竹原市立忠海学園)

本研究の目的は、聴覚に障がいのある生徒の英語学習への動機づけに関する課題を明らかにすることである。本調査では、内発的動機づけを起こすに当たり必要とされる、自律性の欲求、有能性の欲求、関係性の欲求の充足度を尋ねる質問紙を作成し、聴覚障がいのある生徒と健聴の生徒に回答をいただいた。聴覚に障がいのある生徒と健聴の生徒のデータについて、記述統計量を求め、t検定を用いて分析した。調査の結果、聴覚障がいのある生徒は、関係性の欲求の充足度が低いことと努力に対する結果の期待感、満足感が低いと判断した。

15:40～16:10

課題価値が学習の持続性やエンゲージメントに及ぼす影響－教科による差異に着目して－

池田 幸恵(広島商船高等専門学校)

高等教育において英語を学ぶ学生の多くは英語以外の教科を専攻する非英語専攻の学習者である。そのような非英語専攻の学習者にとって英語を学ぶことと専門教科を学ぶことにはどのような違いや共通点があるのだろうか。本発表では、工学系専門教科を学ぶ高専生を対象に、学びをどのように価値づけるかという課題価値の認知が学習の持続性やエンゲージメントといった学習行動に及ぼす影響について英語と専門教科で比較分析を行う。

15:20～16:50

L2動機づけ自己システムにおける学習経験の影響：日本・インドネシアの大学生を対象とした比較研究

高橋 俊章(山口大学)

Putu Ayu Asty Senja Pratiwi (Udayana University)

本研究では、L2動機づけ自己システム(L2MSS)の枠組みに基づき、EFL環境における「L2 Learning Experience」が学習者の L2 動機づけに与える影響を検討する。インドネシアと日本の大学生を対象に収集したアンケートデータに基づき、学習経験が理想的 L2 自己および義務的 L2 自己とどのように関係しているかを比較・考察する予定である。

全体スケジュール一覧

	第1室 (2階: 22番教室)	第2室 (2階: 23番教室)	第3室 (2階: 24番教室)	第4室 (3階: 31番教室)	第5室 (3階: 32番教室)	第6室 (4階: 41番教室)	第7室 (4階: 42番教室)	第8室 (4階: 43番教室)
13:40～ 14:50	特別講演							
15:00～ 15:30	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表
15:40～ 16:10	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表
16:20～ 16:50	研究発表	研究発表		研究発表	研究発表	研究発表	研究発表	研究発表

連絡先:

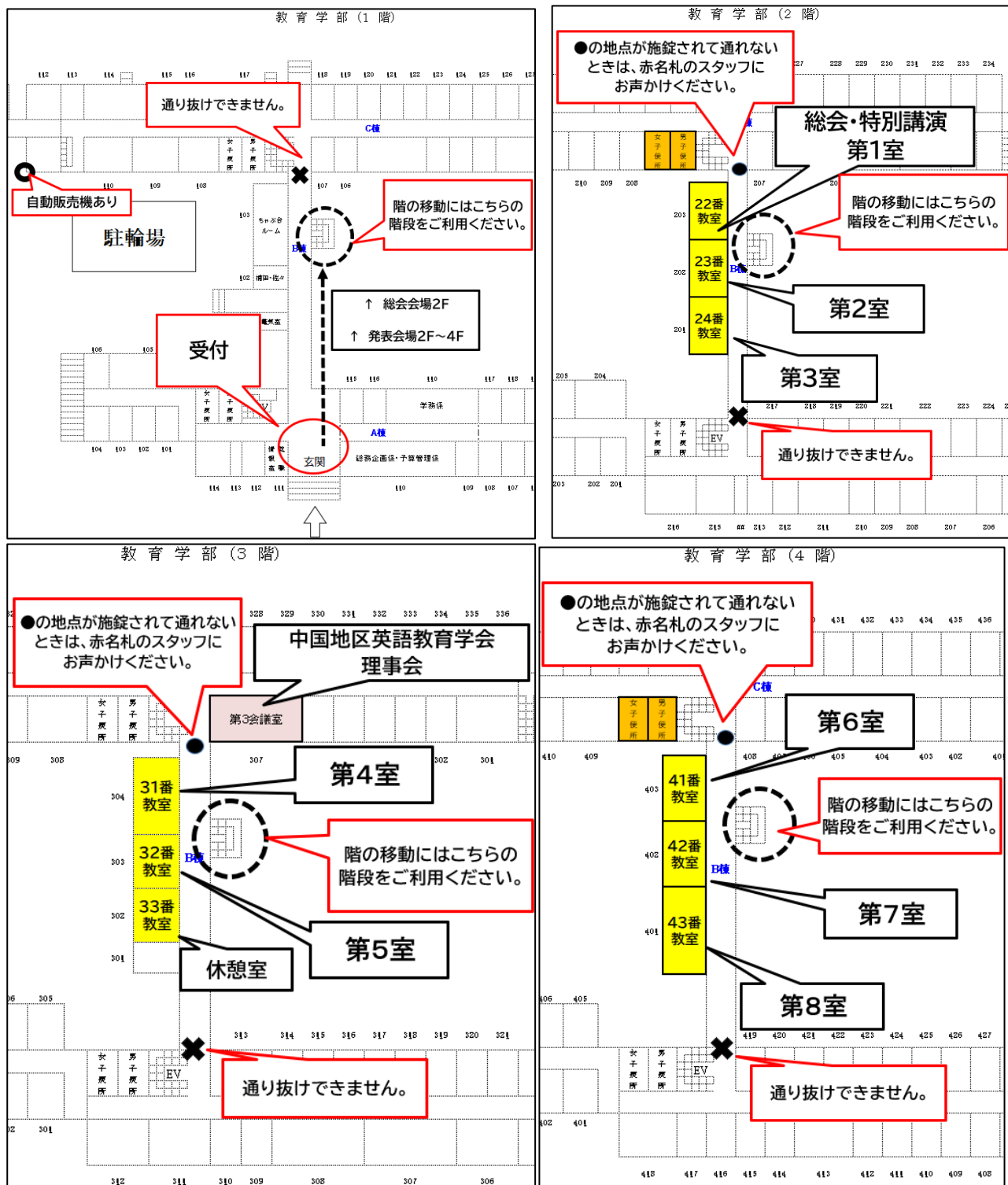
第56回中国地区英語教育学会山口大会事務局

〒753-8513 山口市吉田1677-1 山口大学教育学部 猫田和明

TEL/FAX:083-933-5417

E-mail: nekoda@yamaguchi-u.ac.jp

会場案内図



3 階の 33 番教室を休憩室としてご利用ください。

山口大学吉田キャンパスへのアクセス



JR 新山口駅—20 分—湯田温泉駅—駅より徒歩約 25 分
(湯田温泉駅からタクシーで 5 分)
JR 新山口駅からタクシーご利用の場合は、吉田キャンパス
まで約 25 分かかります。

防府東 I.C.から車で 30 分、小郡 I.C.から車で 15 分
湯田温泉スマート IC から車で 5 分

湯田温泉駅および山口大学周辺のタクシー会社

大隅タクシー	083-922-0860
第一交通	083-922-1368
山野タクシー	083-928-1940
中司タクシー	083-922-0812
湯田都タクシー	083-922-0232

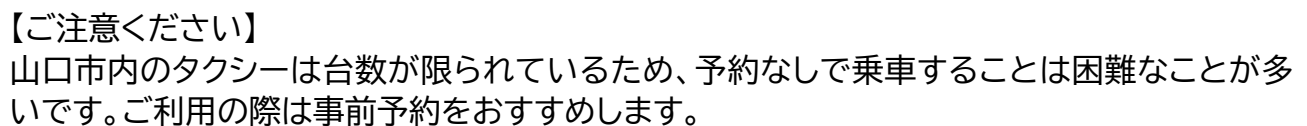
【ご注意ください】

山口市内のタクシーは台数が限られているため、予約なしで乗車することは困難なことが多いです。ご利用の際は事前予約をおすすめします。

キャンパスマップ



バスでのアクセス: 山口大学構内バス停 湯田温泉通 料金:200円
17:30 発 → 17:40 着
18:05 発 → 18:15 着



*団体のため、会場への入口が別となっております。
正面の入口ではなく、お店に向かって右手にある門に入り、階段から 2 階にお越しください